

第1回 区民版 子ども・子育て会議
「こんなの欲しい“をカタチにすると！
～中高生・若者世代とのフューチャーセッション～」

日時：2017年5月18日（木）18：30～

会場：成城ホール 4F集会室D

参加者 65人

1) 挨拶 (NPO法人せたがや子育てネット 松田)

今年で3年目の区民版子ども・子育て会議、本日は若者がテーマで「こうなったらいいな」という話を立場、年代関係なくいろいろな話ができたらいいなと思っています。

若者をテーマにしたのは今までも毎年1回実施してきたが、今年に関しては実際の間もできるということで、世田谷区がすすめていることを話してもらい、共有する場を前半にとります。希望丘若者交流センターに関わっている【あり方検討会】に参加している方もたくさん参加しているかと思いますが、今、どうなっている？というのを聞こうと思います。

2) 希望丘若者交流センター概要説明 (世田谷区区役所若者支援担当 小野課長から)

区民の皆さんとつくりようとしている希望ヶ丘跡地をどうしていこうか、意見交換もしていければと思っています。(配布資料から説明)

平成25年度からの若者たちが力を発揮できるように支援していく課

若者たちへの施策少なかった

実験的な居場所を烏山につくったら多くの若者たちが集まってきた

⇒集まれる場が必要なのでは？

やりたいことをやっていきながら元気になっていったらいいよね

⇒児童館の中高生、若者版を作っていこう →池乃上青少年会館、野毛青少年交流センタ

ー

平成26年開始

池乃上青少年会館 →地域の人と

野毛青少年交流センター →若者たちが考えてすすめている

⇒平成26年から 希望丘にも同じように青少年施設設立の動き

希望丘中と船橋中の跡地が複合施設に

⇒多世代交流ができる場に、若者たちが主となる場に

青少年の活動の場、地域の人と交流し、地域の担い手に

平成27年

希望丘複合施設基本構想 方針：青少年交流センターとして多世代交流、地域の担い手に若者たちの意見を聞いていく

約1年かけて若者たちと考えてきた。⇒青少年が主体となれる場に/多世代が交流できる場

ハード的な部分 →複合施設基本設計に

特養ホーム、保育園、区民集会所、ホットスクール、スポーツ施設
多世代交流ができる場に

平成31年にオープン予定

希望丘青少年複合施設としてどうしていくか具体的な話をはじめたところ

1月から検討をはじめたところで、大人だけでなく、若者の部会も一緒にたちあがっている。

実際の運営にもいかしていきたい

皆さんと話し合いながら一緒につくっていききたい・・・というのが世田谷区の思い

平成29年

運営のあり方を検討中 事業者がきまったところで、地域の皆さんと考え、オープン後も運営委員会のような区民の皆さんと話せる場としていきたい

具体的なイメージをもてるように議論していきたい

1000平米の場にこんなものがあればいいと検討したフロアマップもあり

3) 2016年 第4回区民版子ども子育て会議(若者)のまとめ

明石から9月7日の区民版で若者を取りあげた時のまとめを紹介 (配布資料参照)

- 一人で来てもいやされる
- 場所より人が集まる
- こんな職員がいたらいい

⇒具体的というより、あったらいいなど話し合った結果

4) 2017年2月に実施した「区民版子ども・子育て楽(学)会」のアンケートからの考察を報告 (配布資料参照)

考察報告：小川&長谷川（日大3年 たからばこ運営）

中高生に「居場所」について聞いてみた

中高生の居場所づくりに関わっている職員、ボランティアがアンケート作成、まとめを担当

アンケート対象：普段プレーパークや居場所に来ていない中高生

区内3公立中学校175人、4私立、公立高校 305人 にアンケート実施

- 知っているけど行かない理由 1) 忙しい 2) 興味ない 3)、小学生が多い
- こんな場なら行く として4つの選択肢の中から選んでもらった
中学生に人気は 同世代の中で遊びを通してゆっくり過ごせる部室
一番人気なかったのは地域コミュニテイ七輪
- どんなふうにご過ごしているか？ 1) 部活 2) 家
高校生アンケート 場を知らないのが半数以上
行かない理由：1) 興味ない 2) 小学生が多い
行きたい場：として4つの選択肢からの選んだのは1番人気：部活
- 一番いるのは1) 家 2) 部活 3) バイト

【若者部会での考察】

2月の「子ども子育て楽会」でアンケート結果を発表、5月での考察はまだ不十分である状況

- 男子の「知っている」「行っている」数値は女子より多く出ていた
- 小学校から世田谷区民で児童館に行ってたか？
- 高校生は区外から来る子も多く、「知らない」が増えている
- 「いるところ」では中学生は部活、高校生は家が多くなっていく
- 公立は地域密着型（児童館に行く子も多い） 私立になると遠くに行くため、通学だけに時間をとられ、地域との連携も薄くなる。地元との関係も疎遠になっていく。地元でも居場所がなくなり家が居場所になっていくのでは。
- 私立中学校に行く割合が多い世田谷区民は中学生でも地元から疎遠になってしまいつつある子どもたちが多くいる問題もある。

5) 2月の「子ども子育て楽会」での若者分科会での映像を流す

「これでいいのか若者支援」の寸劇

<<結局私たちのいる場所がない？と場を離れていく若者たち>>

<休憩 若者たちによる演奏タイム>

森川から紹介 「動画OK！ 写真もOK！」

カイト、エグッチャンによる One OK rock の wherever you are

6) ワールドカフェ (20分×3回)

■ 4つのテーマ：(7グループ)

1. 若者が主体性を発揮できる運営 (2グループ)
2. 多世代と交流できる運営 (2グループ)
3. 地域とともに若者を支え育てるための連携 (2グループ)
4. 社会・地域の担い手として学び成長を支える運営

◇ 若者紹介

◇ 管理職紹介

若者支援課長 小野さん、児童課長 吉永さん、 児童相談所開設 長谷川さん、
育成推進課長 緒方さん、

今日は10代、20代が主役です！

正しい意見というのはないので、お互いの意見を尊重していっぱい意見を残していければと思います。

希望ヶ丘若者交流年施設についても話していきますが、それだけとは限らず、フューチャーセッションなので、過去にあったあれこれ、というよりは未来に向けて前向きな話をお願いします。

第1回ワールドカフェ終了

一人だけがテーブルに残って移動します。椅子のあるところにうつってください。テーブルで話し合っていたことを簡単に説明してからすすめてください。

第2回目のワールドカフェ

第3回目のワールドカフェ

カイト、エグッチャンにハルキが加わっての演奏タイム

～齊藤和義「歩いて帰ろう」

7) まとめ

● 3. 地域とともに若者を支え育てるための連携

- 支え育てる、若者を育てるってどういうことだ？ ➡上から目線がいなめない
- いろんところで若者が意見を出せる場があるが、受け取る側の姿勢が大事
- 身近なスタッフがやりたいと思ったときに言わせてくれたり、やってくれると積み重ねで言えるようになっていく
- ホットワード 「盾になる大人」
- クッションになってくれて、実現させてくれる大人の存在が地域と若者がつながっていくのではないか。
- 地域と若者、両方にわかっている人がいないとつながりあえない。
- スタッフは現場にでていくことが大事。現場に出ていないと区役所の中だけの仕事ではわからない。
- 若者からは地域の人にいわれるとはいりやすい。親からだとうとうしいことも地域の人からの言葉はすんなりはいつていく。
- オープンにして若者の顔が地域に見えないと。
- 見通しのよい斜めの関係をどんどん作っていくことが大事という意見がでた

● 3. 地域とともに若者を支え育てるための連携

- 連携とはなに？誰と誰が連携？交流センターと地域
- 地域って何？ 支え育てる
- 若者が何をしたいのか？それをサポートするための連携が大事
- 育てる？クエスチョン
- 若者から
若者は地域に育てられたいのか？（ざわめき）
- 一緒に学びたいということではないか？盾となって、暖かく見守ってくれる大人の存在があれば地域に広がる、相互の関係ができるのではないか

● 4. 社会・地域の担い手として学び成長を支える運営

- そもそも地域の担い手として求めてくるのが問題。遊びにきているだけなのに、ハードル高くないか？
- 運営する側にはビジョンとして掲げる必要もある
- 運営がはじまっても意見を言える場がほしい。
- 来ている子だけでなく、来ない子の意見も聞いていかないと。
- 来てもらわないとはじまらない。
- 多世代交流、失敗できる場、学校で輝けない子たちも輝ける場を考えられればいい。

● 1. 若者が主体性を発揮できる運営

- 主体性とはなんぞや？
- 若者が不耐性を持つ場が少なかったり、あれやりたい、これやりたいと言っても制度上とかでできにくい環境がある、若者たちと一緒にやっていきたいと思うがどこまで許していけるのか？うまくまわっていかなくなるのでは？
- 主体性を持つのは若者だけでなく、地域で、皆で若者の居場所を作っていこうという意見がでた。
- 地域にどういふふう宣伝していくか？大々的に宣伝もできるが、すべての子どもたちに来てもらう必要があるのか？部活や習い事などで過ごしやすい場所があるなら、他の場所に行かなくてもいいのでは？
- 本当に学校や家庭に行きづらい子どもたちに居場所のあることを気づいてもらえるのだろうか？
- 対象者のココロをうごかせるか？を考えながら知ってもらう呼びかける必要があるのかな

● 2. 多世代と交流できる運営

- 運営だけでなく場というテーマで話した、プレパや多世代の場での体験から話を聞いた。大人も子どももめんどくさいこともある。
- 若者が大人に話を聞いてもらう時間も必要。指図をするのではなく一緒に考えてくれる大人。サポートをしてくれる大人の存在が大事。
- 若者が主に来るところ、乳幼児が主に来るところの多世代交流はちがう。誰と誰が交流するのか考えることが必要。
- 老人ホーム、保育園、交流センターがあるなか、それぞれの居場所が大事。クローズドな場（保育園、老人ホーム）での交流も難しいのでは？
- イベントがきっかけの基本は誰でも行ける、食、遊び、学びを間口で設定すると誰もが行けるきっかけになるのでは？
- お互いがやっていることが目に入る運営が大事では。
- やってもらう、やってあげるだけが交流ではない
- コンシェルジェのような、交流のスペシャリストがいたらスムーズになるのでは
- 「楽しいだけではすぐあきる」 by 若者

● 1. 若者が主体性を発揮できる運営

- 若者が主体性を発揮しないといけないのか？興味ないのが多い中、やりたいことがある若者だけではない、主体性ってなに？自分がやってみたいことって過去の体験しかない
- ライブを見に行くと、楽しそうで自分もやりたくなった。楽しい経験をすることで主体性がでてくる。巻き込まれることも大事。ちょっと上の世代の楽しんでいることに

まきこまれていく。プレパや児童館で大人も楽しんでいることに巻き込まれていくと自分からやりたくなっていくこともある

- 大人や周りが楽しんでいるとまきこまれて、主体性を発揮しちゃうといいのかな

● 2. 多世代と交流できる運営

- 多世代ってどういう人と関わっていきたいか。
- 中学生は近い年代のちょっと上。中学生は高校生、高校生は大学生、大学生は社会人。
- 自分の将来の参考になるから？
- 交流しましょう！ではなくゆるいコミュニティができたらいいな、でもそれを目的としたらちょっと違うのでは？
- 若者の場での多世代で交流するなら、地域に開かれたカフェがあっというんな人が来るなかで、若者がやっていることもみえたり、おじいちゃんがしていることが見えたりするといいのでは。
- 若者はそもそも多世代交流したいのか？場としてどうしたらいいかを話した

これから先どうなっていくのか、今後も見守ったり、具体的なアクションで関わっていただけたいと思います。区民版子ども子育て会議若者編に、最初来た時中 2 だった若者は今や 17 歳。31 年の春にはどうなっていくのか、皆で意見をだしたり、見守っていきたいです。

今後も母子避難所、働き方、いろいろなテーマでも区民版で話し合っていくので、名刺やアドレスなど連絡先をお知らせください。